

第3学年 社会科学習指導案

1 単元名 豆腐からのぞいてみよう！地域のお店の秘密

2 単元の目標

- ・地域に見られる豆腐を販売する仕事に関して、問題解決の見通しをもって主体的に調べようとしたり、学習したことをもとに自分の消費生活やこれからの地域社会の在り方について考えようとしたりすることができる。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・消費者の願いや豆腐の販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、原田豆腐店の店主の仕事に見られる工夫を考えるとともに、地域の販売店における課題の解決に向けて、自分の社会への関わり方について、他者の考えや思い、願いを取り入れながら選択・判断し、それを表現できる。
(社会的な思考・判断・表現)
- ・原田豆腐店の見学や家庭での買い物調査を通して必要な情報を集めたり、商品の仕入れ先や豆腐の原料である大豆の産地を白地図にまとめたりすることができる。
(観察・資料活用の技能)
- ・豆腐を販売する仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解できる。
(社会的事象についての知識・理解)

3 単元について

(1) めざす子どもの姿

【3年1組】

本学級の児童は、自分の考えを進んで発言できる子が多い。その一方で、自分の考えを発言し終わるとそれだけで満足している子もおり、友達の意見を聞いて新たな考えを受け入れたり、自分の考えと比べたりすることができる子は少ない。1学期に行った社会科の学区探検においても、それぞれの地域の特色について気付いたことや考えたことを、活発に伝える姿は見られたものの、他者の考えとつなげていくところまではできていなかった。そこで、本単元では、他者の考えを大切にし、自分の考えと比べながら話し合い、学び合うことを重点におき、自分の考えを深め、新たなものにしていく姿勢を育てていきたい。

今回、地域の販売店の工夫と消費者の願いとのつながりについて考えていくことで、販売の仕事の工夫は消費者である自分たちの願いに応えようとしていることに気づいてほしい。そして、地域の消費者の一員としての自覚を養ってほしい。

【3年2組】

本学級の児童は、自分の考えを進んで発言できる子が多い。特に1学期に行った社会科の学区探検では、それぞれの地域の特色について、自分たちの考えを活発に伝え合うことができた。話し合いの中で、何人かの児童が前の子の意見に付け加えて発言する場面があった。そこに、考えをつなげていこうとする意識の芽生えを感じた。この意識をより多くの児童へと広げることによって、クラス全体で学びを深めようとする集団へと成長できると考えた。そのためには、他者の考えの良さを受け入れながら吟味し、自分たちの考えを更新していく姿勢が大切となる。関わり合い、学び合うことを大切にしながら、このような姿勢を育てていきたい。

また、仲間と共に学びを深めていく姿勢に加え、その学びをもとに自分の生活や地域を見つめ直すようとする姿を引き出したい。かぎとなるのは自ら課題を見出し、切実感をもって追究することだと考える。家族への聞き取り活動や、地域の人たちとの対話を通して、主体的に動き出す児童の姿へとつなげていきたい。

(2) 教材の価値

本単元では豆腐に焦点を当てる。児童は2年生の生活科で大豆を育てた経験がある。単元の最後には豆腐作りを行った。この慣れ親しんだ豆腐を扱うことで、児童は単元に抵抗なく入ることができるだろう。今回、豆腐の販売店として原田豆腐店を取り上げる。学校に近いこともあり、児童にとって大変身近なお店である。この馴染みのある豆腐店を中心として「原田豆腐店が地域の中で長く続いている秘密はなんだろう」という単元を貫く問いを立てて追究していく。この店へ家族で豆腐を買いに行ったことのある児童も数多くおり、その生活経験から買い物の具体的な場面が語られるだろう。また、2年生の時の町探検でも原田豆腐店を訪れており、その際に調べたことと関連付けながら、お店の工夫について話し合うことができるだろう。更に、買い物調べから得たお客さんの願いと、それに応えようとする原田豆腐店の工夫と努力をつなげて考える中で、お客さんのためという店主の強い思いに児童は気付いていくだろう。そのような店主の思いを汲む中で、自分のこれまでの消費生活をふり返り、意識を新たにしようとする児童の姿を引き出していきたい。

単元後半には、原田豆腐店が安城唯一の個人経営の豆腐店であるという事実と向き合う。ただ一つ残された原田豆腐店に対して、児童らは今までにない特別な思いをもつだろう。その思いをクラスで伝え合う中で、地域のお店に対するこれからの向き合い方について、切実感をもって考えようとする姿を引き出したい。

また、大豆栽培や豆腐作りの経験、そして児童にとって身近な原田豆腐店を取り上げるということで、本単元では、児童らの共通した経験や場面をもとに語られる言葉が数多くあると考える。そこから生まれる共感を大切にしながら、他者の考えの良さを受け入れ、自分たちの考えを深めていく姿勢へとつなげていきたい。

(3) 指導の手立て

① 体験活動や地域の人との出会いの場を設定する

課題に向かって児童が切実感をもって追究していくためには、確固たる自分の考えや思い、そして学習対象に対する意欲をもつことが大切となる。実際に体験したり、地域の人と関わり、その苦労や努力、工夫にふれたりすることを通して、自己の思いや意欲はより高まり、それを伝え合う中で考えは一層深まっていくだろう。

単元の導入では、豆腐の食べ比べを行う。多種多様な豆腐を実際に食べるこの体験を通して、どれも似たようなものだと思っていた豆腐にも、味や価格、材料の原産地など様々な違いがあることに気付くだろう。そして、児童らの中に豆腐について更に追究したいという思いが生まれるだろう。

単元の中盤には、実際に原田豆腐店に行き、店主から豆腐の販売における工夫や努力、苦労について聞く場を設定する。それまで予想や推測で考えていた児童らは、ここで店主の生の声に出会う。地域のお店として長年やってこられた店主の声の重みを感じ取るだろう。そこから自分たちの消費生活や、地域における原田豆腐店に対する考えを再構築し、切実感をもって課題解決へと向かっていく姿を期待したい。

② 学びの蓄積としてのお豆腐ブックや学びの足跡を活用する

配付した資料や授業のふり返りなどをお豆腐ブックとしてファイルにとじていく。また、単元における一連の流れや授業での意見を学びの足跡として掲示する。これにより、単元の過程だけでなく、自分の思考の変遷、他者の考えについても視覚化できる。これは他者の考えを取り入れたり、その良さに気付いたりするきっかけになると考える。また、自分の思考の変容について客観的に見つめながら、他者の意見とのつながりを探ることができる。

③ 豆腐という題材を中心とした学びの連続性をもたせる

2年生の生活科における大豆栽培と豆腐作り、町探検での原田豆腐店への訪問を通して得た学びと、今回の単元は「豆腐」という題材を軸として連続性をもっている。加えて、原田豆腐店は地域に根付いた身近なお店である。共通の経験をもとに、児童は意見を活発に伝え合い、これまでに学んだことを生かして考えを深めていくことができるだろう。また、児童らにとって身近な豆腐という題材だからこそ、単元を通して主体的に考え行動する姿を引き出し得られるだろう。

④ 学び合いの場を設定する

隣同士、小グループ、全体など、形態を工夫した学び合いの場を設定する。これによって、他者の考えにふれることができ、自分の考えと関連付けたり、自分のもっていなかった新たな視点に気付いたりすることができる。互いの考えを伝え合うことを通して、学びを深めていこうとする姿を引き出したい。

(4) 単元構想図

学習内容・児童の思考	学びをつなげていくための手立て
<p>豆腐を食べ比べて違いを考えよう①</p> <ul style="list-style-type: none"> 豆腐って全部一緒だと思ってたけれど、味が全然違うね。 家ではどんな豆腐を買っているのかな。 家でいつも食べている豆腐は、どこで買ったものなんだろう。 よし。今日家でお母さんに聞いてみるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> 豆腐に関心をもてるよう、2年生の生活科で行った栽培活動や豆腐作りをふり返る。(手立て③) 次時のお客さんの願いにつながる味や価格、産地に着目できるように、実際に様々な豆腐を食べ比べる。(手立て①)
<p>豆腐の買い物調べについて伝え合おう②</p> <ul style="list-style-type: none"> 西友で買うことが多いって言ってた。値段が他のお店よりも安いらしい。 原田豆腐店で買うって聞いたよ。とにかくおいしいって言ってた。 この前、車に乗って売りに来てたよ。ラッパの音が合図だって。 バローによく行くらしいよ。産地にこだわって買っているみたい。 お母さんたちはいろんな思いをもって買い物をしているんだね。 スーパーの種類がたくさん出たけど、原田豆腐店だけは違うよね。昔からあるみたいだし、長く続いている秘密はなんだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元を貫く問い「原田豆腐店が地域の中で長く続いている秘密はなんだろう」につなげるため、おうちの人がそのお店から豆腐を買う理由を整理し、お客さんの願いとして押さえる。
<p>原田豆腐店が地域の中で長く続いている秘密を予想しよう③</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心できるからじゃないかな。お母さんが国産の材料を使っているから買うって言ってたよ。 スーパーと比べて値段はどうなんだろう。そこに秘密があるかも。 やっぱり味だと思うよ。おいしい豆腐を売るために、作り方にこだわっているんだよ。 家の近くまで車で売りに来てくれるし、便利だからかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの思考を次時へとつなげるため、予想で出たものをもとに、豆腐店で聞くことを決め、今後の学習計画を立てる。
<p>原田豆腐店に行って調べてみよう④⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> 豆腐の材料の産地について教えてください。 原田豆腐店の豆腐は他のお店よりおいしく感じたんだけど、何か秘密があるんですか。 価格を下げるために、何か工夫をしているのですか。 車で売りに行くって聞いたのですが、どうしてですか。詳しく教えてください。 	<ul style="list-style-type: none"> より切実感をもって課題解決に向かえるよう、実際に店主から工夫や努力、苦労について話を聞く。(手立て①) 自分の学びを蓄積するために、お豆腐ブックに分かったことをメモする。(手立て②)

<p>原田豆腐店を産地から考えよう⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーの豆腐の大豆は外国産もあったよ。原田豆腐店の材料は国産のみだってこの前教えてもらったよね。 ・スーパーは他の店から仕入れているけど、原田豆腐店は自分のお店で作っていたね。 ・国産の材料を使って自分のお店で作っている。なんだか他のお店よりも安心できるね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原田豆腐店とスーパーに置かれている豆腐について、材料の産地や仕入れ先を調べ、白地図に落としながら比較することで、その特色に迫る。 ・これまでに調べた情報や大豆の産地を振り返るために、お豆腐ブックや学びの足跡を使用しながら進める。(手立て②)
<p>原田豆腐店を価格から考えよう⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーの方がいろんな価格の豆腐を置いているんだね。 ・スーパーの豆腐の方が原田豆腐店より全体的に安いね。 ・でも産地を見てよ。スーパーの安いものは外国産だよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原田豆腐店とスーパーに置かれている豆腐について、価格別に整理することで、その特色に迫る。
<p>車で豆腐を売りに行く原田豆腐店について考えよう⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に一回、車で売りに行くと教えてもらったね。 ・スーパーはこんなことやってないよね。原田豆腐店だけだよ。 ・仕事で忙しい人は助かるよね。 ・遠くまでいけないおじいちゃんやおばあちゃんも助かるんじゃないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーにはない原田豆腐店だけの特色に迫るため、移動販売を取り上げ、その取り組みの持つ意味について考える。
<p>原田豆腐店を味から考えよう⑨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔ながらの作り方をずっと続けているって言ってたよね。 ・材料にもこだわっていたね。その分、価格はスーパーより高いけど。 ・やっぱりスーパーの豆腐より断然おいしいや。手間暇をたくさんかけて作っているって教えてもらったものね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・味という明確な視点をもって再び食べ比べを行い、味から原田豆腐店の特色について考える。(手立て①)
<p>どうして原田さんはいろいろな工夫をするのだろう⑩【1組本時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国産の安全な大豆だけを使っていたよね。 ・手間暇かけているから、スーパーの豆腐よりおいしかったよね。 ・車で家の近くまで豆腐を売りに来てくれたよね。あれは便利だよ。 ・どの工夫もお客さんの願いに応えようとしているね。買い物調査の結果と原田豆腐店の工夫がつながったよ。 ・長く続いている秘密は、お店のおじさんが一生懸命お客さんの願いに応えていることだったんだね。 ・これからは、原田豆腐店のおじさんの気持ちを感じながら買い物がしたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さんの願いに着目できるよう、学びの足跡を使用する。(手立て②) ・自分の考えと関連付けたり、新たな視点に気付いたりするよう、小グループで考えを伝え合う場を設定する。(手立て④) ・自分の消費生活を振り返り、意識が変わった児童の「これから」という言葉を取り上げ、視点を原田豆腐店の今後に移す。そこから次時では、原田豆腐店のような個人店の現状の課題と今後について考えていく。
<p>これからの原田豆腐店について考えよう⑪⑫【2組本時⑪】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原田豆腐店は、安城市に残されたたった一つの個人の豆腐店だったんだ。なんだか寂しいなあ。今後もお店を残していくためにはどうすればいいんだろう。 ・たった一つのお店だから、地域のために守っていききたいよね。 ・ぼくたちがPOP 広告を作ればお店が盛り上がるかも。 ・家族に原田豆腐店の良さを伝えればいいんじゃないかな。 ・ビデオレターでお店の人の思いを聞いて、より原田豆腐店が好きになったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の考えをつなげ学びを深められるよう、個々の考えを座席に落とし意図的指名を行う。 ・自分の考えと関連付けたり、新たな視点に気付いたりするよう、小グループで考えを伝え合う場を設定する。(手立て④)
<p>学習を通して考えたことを、家族に伝えよう⑬⑭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習したことを、毎日買い物をしている家族に伝えたいな。 ・原田豆腐店は私たちの願いにしっかり応えていることをぜひ伝えたいね。 ・地域にたった一つの大切なお店だということも知らせたいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの自分の考えと友達のことを関連付けて考えられるよう、お豆腐ブックや学びの足跡を使って振り返る場を設ける。(手立て②)

5 本時の指導【3年1組】（10／14）

場所 3年1組教室
指導者 杏名 千春

(1) 本時の目標

原田豆腐店の工夫について話し合うことを通して、地域の販売店と消費者の願いとのつながりについて考えることができる。

(2) 学びを深めた姿

原田豆腐店の工夫は、どれもが消費者の願いにつながっていることを話し合いの中で個の意見をつなげながら導き出していく姿。

(3) 指導過程

時間	学習活動	教師の支援
0	1 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">原田豆腐店の良さや工夫を考えよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学習してきたことを思い出し、多くの児童が発言できるようにするために、これまでの授業の足跡をふり返る。
3	2 原田豆腐店の工夫とお客さんの願いの関係について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・国産の安全な大豆だけを使っていたよね。 ・豆腐を作るときに、国産の大豆やにがりにこだわって作っていると言っていたよ。 ・そういえば、この前インタビューしたとき、原田さんはお客さんに喜んでほしいと言っていたよね。 ・安心安全なものが食べたいというお客さんの願いは、国産のものを使って作っているというお店の工夫とつながるんじゃないかな。 ・とにかくおいしいものを食べたいというお客さんの願いには、大豆の種類やにがりにこだわって、手作りしているお店の工夫とつながるね。 ・どの工夫もお客さんの願いに応えようとしているね。買い物調査の結果と原田豆腐店の工夫が繋がったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで調べてきたことや友達の考えと自分の考えを関連付けたり、新たな視点に気付いたりするよう、小グループで考えを伝え合う場を設定する。 ・お客さんの願いと店の工夫をつなげて考えることができるように、学びの足跡を使用しながら話し合いを進める。 ・お客さんの願いと店の工夫のつながりに気付きにくい場合は、「どうして原田さんはいろいろな工夫をするのだろうか」と、問う。 ・店がお客さんの様々な願いに応えようと工夫していることに気付くことができるように、お客さんの願いとお店の工夫のつながりが視覚的に見える板書を構築する。
3 5	3 ふり返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・これからは、ぼくらの願いに応えようとしてくれている原田豆腐店のおじさんの気持ちを感じながら買い物がしたいな。 ・買う人においしいものを届けたいという原田豆腐店と、おいしいものを食べたいと考える私たちの思いが一緒だと気付いたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・店が買い物客の様々な願いに応えようと工夫していることについて、話し合いをふり返り、今後の自分の生活の中でどうしていくかを考えるよう促す。 ・自分の消費生活をふり返り、意識が変わった児童がいた場合は、「これから」という言葉を取り上げ、視点を原田豆腐店の今後に移す。

(4) 評価

原田豆腐店の工夫について話し合うことを通して、地域の販売店と消費者の願いとのつながりについて考えることができたか、発言の内容やふり返りの記述から判断する。

6 本時の指導【3年2組】（11／14）

場所 3年2組教室
指導者 中務 岳

(1) 本時の目標

原田豆腐店に対して他者と意見を伝え合うことを通して、今後どのように向き合っていくのかについて、自分の考えをもつことができる。

(2) 学びを深めた姿

個人経営の豆腐店は年々減り続け、今は安城市に原田豆腐店しか残っていないという事実に対して意見を伝え合う中で、他者の考えの良さを受け入れながら、地域の豆腐店への今後の自分の向き合い方について選択・判断する姿。

(3) 指導過程

時間	学習活動	教師の支援
0	<p>1 学習課題を確認し、個人でやっている豆腐店が減っていることについて考えを伝え合う。</p> <p>これからの原田とうふ店について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっぱりスーパーの方が、たくさん種類があって安いから、お客さんはそっちへ行っちゃうのかな。 ・お客さんのことを考えているのは、スーパーも原田豆腐店も同じなのにね。 ・原田豆腐店も個人のお店だから、心配になってきちゃったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人店の減少が事実であることを確認するため、根拠を示す資料を提示する。 ・自分の考えをしっかりともった上で発言できるよう、お豆腐ブックを開き、学習課題について考えを整理する時間を設ける。 ・意見につながりが生まれるよう、個々の考えを座席表に落とし、傾向を把握した上で、意図的指名を行う。
15	<p>2 店主からのビデオレターを見て、これから自分たちはどのように原田豆腐店と向き合うべきかについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安城市に豆腐屋さんは原田豆腐店だけなんだ。これは何とかしないといけないよ。 ・原田豆腐店を応援したいな。わたしたちに何ができるかな。 ・ぼくたちがPOP広告を作るのはどうだろう。お店の人はきっと喜ぶよ。 ・私は家に帰って家族に伝えるよ。原田豆腐店のことたくさん教えてあげるんだよ。 ・原田豆腐店に行ってもお手伝いできないかな。2年生の時、みんなで豆腐を作ったことあるし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状について切実感をもって話し合えるよう、店主には、昔たくさんあった豆腐屋がどんどん減り、今では安城市で1つになってしまったという事実や、地域のお客さんのためにという思いがあるから続けてこられたということに関して詳しく語っていただく。 ・友達の考えを取り入れながら、自分の考えがしっかりとてるよう、話し合いに入る前に、グループで対話する時間を設ける。 ・原田豆腐店のためにできることを考えられるよう、お豆腐ブックや学びの足跡を参考にしてもよいことを伝える。
35	<p>3 ふり返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原田豆腐店を大切に思う気持ちが強まったよ。A君の言っていたPOP広告作りに私も参加したいな。 ・原田豆腐店を手伝いたいというBさんの気持ち、ぼくも分かるよ。地域の大切なお店だものね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の具体的な活動へとつなげるため、原田豆腐店に対してこれからどのように向き合っていくのかについて、友達の意見を聞いた上での自分の考えを書くよう伝える。

(4) 評価

原田豆腐店に対して他者と意見を伝え合うことを通して、今後どのように向き合っていくのかについて、自分の考えをもつことができたかどうか、発言の様子やふり返りの内容から判断する。